

㊤特定非営利活動法人天満浦百人会

～ やるき・本気・元気で地域活性化に取り組む ～

◆「食」の提供・活用 ◆子ども(教育・体験) ◆高齢者の活躍



地域の交流の場としての活動



おわせおひなさま祭り 天満荘会場



ある日のカフェのメニュー

活動のきっかけ

平成12年に過疎・高齢化が進んだ地域に活気を取り戻そうと「天満をどうにかしようらい！」を合言葉に天満浦百人会を結成し、おもてなし中心に活動。平成19年、夢古道おわせレストランへの出店を機に法人化。平成22年からは古民家「天満荘」でのカフェ経営を中心に活動。

活動の概要

- ◇本物の尾鷲の味を伝えたい、そんな思いから出前授業を実施。(魚食の普及や地産地消)
- ◇作り手のなくなったみかん山を借り受けて栽培し、甘夏みかんの消費拡大と有効利用としてジュース作りを提案。幼稚園児・小学生とその保護者にジュース作り体験などを実施。
- ◇レストラン経験を活かし、さんま寿司、押し寿司体験等の出前授業を水産高校、三重大学と実施。
- ◇平成21年に取り壊すことになっていた古民家「天満荘」を買い取り、70歳前後のスタッフでカフェを運営し、地域の人々が集まる憩いの場となっている。

活動の成果

- ◇天満荘の修理費を募金活動によりまかなうなど市内外の若者との交流が活発。災害時の避難場所としての役割が地域への大きな貢献、安全・安心のまちづくりの実現に向かう。
- ◇三重大学のサテライトとして産業振興学舎に指定され、産学連携による甘夏みかん山への支援や、ジュース、マーマレードづくりなどを通して若者との交流が進み活性化に大きく貢献。
- ◇常に自立を心がけ、賑わいの創出に一丸となって努力し高齢者の生きがい作りと成長に寄与。

問合せ先

〒519-3602 三重県尾鷲市天満浦161番地
TEL:0597-22-7880 FAX:0597-22-7880

⑩亀山K i s e k i の会

～ 幻のべにほまれ紅茶が地域の好循環を創る！ ～

◆伝統・継承 ◆6次産業化 ◆その他(企業CSR、地元NPO・高校との連携)



市民、亀山高校生、NPOによる手摘み



べにほまれ荒廃茶園の再生活動



東名阪PAでKisekiの紅茶販売

活動のきっかけ

戦後賞賛された亀山産べにほまれ紅茶は衰退しは歴史に埋もれていた。紅茶製造スキルの復活・継承を目指して亀山べにほまれ紅茶復活プロジェクトを立ち上げ、平成25年2月に茶業者5名で亀山Kisekiの会を設立し、多様なパートナーとの連携・支援のもと紅茶の生産を再開。

活動の概要

- ◇市内で確認されたべにほまれ荒廃園30aをNEXCO中日本のCSR活動と連携し、茶園を再生。会員も自ら苗をつくり緑茶園をべにほまれに改植し紅茶園の再生・確保。
- ◇会員が専門家の指導で紅茶製造スキルを修得、各自の茶葉を原料に亀山紅茶を生産・販売。
- ◇再生べにほまれ園から『Kisekiの紅茶』ブランド創出と市内飲食店との連携。
- ◇復活したべにほまれ紅茶のなかで高品質なものを『Kisekiの紅茶』としてブランド化。亀山に來ないと買えない、飲めない紅茶として、市内の飲食店・茶補のみで提供。
- ◇平成26年から発達障害児を支援するNPO法人ぽっかぽかの会と連携し、手摘みの高級紅茶をKisekiプレミアム『天使のしずく』として商品化。販売収益全てをNPOに寄付し活動を支援。

活動の成果

- ◇べにほまれ紅茶園の再生・確保と途絶えていた紅茶製造技術の復活とスキルの継承。
- ◇亀山産べにほまれ紅茶『Kisekiの紅茶』を復活、市内限定の販売で地元への経済貢献。
- ◇第一回、第二回の国産紅茶グランプリ連続入賞でべにほまれ紅茶の高品質をアピール。
- ◇市民や亀山高校生、地元NPOの社会貢献活動を支援する仕組みを構築。

問合せ先

〒519-0221 三重県亀山市辺法寺町1011
TEL:0595-85-0524 FAX:0595-85-0524

⑪有限会社藤原ファーム

～ 餅加工と田舎体験で過疎集落の農地を守る ～

◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化 ◆高齢者の活躍



そば打ち体験も田舎の思い出に



「えぼし」での商品説明と紹介



大人も子供も田植えを楽しむ

活動のきっかけ

地域の農業を守るために特定農業法人として平成8年に藤原ファームを設立。集落営農を継続するため、平成12年から加工・販売による収益の向上に取り組み、生産したもち米で草餅などの和菓子の加工・販売を開始。さらに、地域の魅力発信、グリーンツーリズムを開始するために地域の方々と連携し平成14年に「ほうすけクラブ」を設立。

活動の概要

- ◇6次産業化の先駆けとして、草餅、かき餅、大福など和菓子を製造し、直売所「えぼし」のほか、ホームページ、通販、県外の小売店で提供。
- ◇地域の方々が講師となり、田植え、稲刈り、エコツアー(自然の素材を使った工作)などの体験や、流しそうめん、餅つき、そば打ちなどの観光コンテンツを提供。
- ◇イベント以外でも訪問者に楽しんでもらえるように、遊歩道の整備、梟が住む森づくり、ビオトープの整備など地域の自然環境の保全に取り組む。

活動の成果

- ◇平成16年度の毎日新聞のグリーンツーリズム大賞や平成18年度の「三重県の食腕自慢」優秀賞の受賞などがきっかけとなり、知名度が向上し来客数、売り上げも向上。
- ◇収益の向上により、地域の農地を守ることにつながるとともに新たな雇用にも寄与。
- ◇ほうすけクラブでの取組は、地域のファンを創りピーターの増加にもつながっている。

問合せ先

〒511-0521 三重県いなべ市藤原町古田1162
TEL:0594-46-2144 FAX:0594-46-2144

⑫一般社団法人大山田農林業公社

～ 子どもから大人まで楽しく農業を学べる「そうその村」 ～

◆「食」の提供・活用 ◆6次産業化 ◆地産地消



花の見ごろを迎えた菜の花畑



汎用コンバインで、菜種を刈り取る



農産物加工所で梅干しをつける

活動のきっかけ

少子高齢化と都市部への若者の移住が進む中、耕作が出来なくなった土地や休耕田の活用が課題となっていた。その中で、平成7年に旧大山田村において、森林や農地の保全、農業経営の合理化を図ろうと団体を設立し、農林業の経済的・社会的地位向上を目指している。

活動の概要

- ◇農地の利用を集積し円滑化させるため、農地の「利用権設定」を行い、担い手農家の経営規模拡大、農地の集団化を行っている。延べ約170ヘクタールを、65戸の担い手農家に集約。
- ◇三重県工業研究所や地域農業改良普及センターなどの依頼を受け、白鳳梨やブドウのドライフルーツの商品化に取り組み、農業の振興や地域の活性化を図っている。
- ◇地域で収穫した農作物で、寿司や梅干し、味噌などの加工品を製造・販売している。
- ◇伊賀市菜の花プロジェクトへ参加し、休耕田や転作田を活用した菜種の栽培を始め、菜種油の製造販売、廃食油を使ったバイオディーゼルエンジン精製事業を実施。

活動の成果

- ◇農地保全管理事業では、新しい担い手が60戸を超え、休耕田の有効活用が進んでいる。
- ◇農産物加工所は、梅干しや味噌などが、売り切れになるほど人気商品となっている。
- ◇菜の花プロジェクトは、協力農家が40戸を越え、平成29年産は過去2番目の収穫量となった。
- ◇都市住民に農業に親しんでもらうためにはじめた「農業小学校」の取組では、活動を通じて就農につながるケースも出ている。

問合せ先

〒518-1422 三重県伊賀市平田103番地
TEL:0595-47-0151 FAX:0595-47-0244

⑬大野木環境保全会

～ 地域の農業・農村環境を子供達に繋げよう ～

◆自然・景観 ◆伝統・継承 ◆子ども(教育・体験)



用水管敷設工事を実施



薩摩芋の収穫体験



おひさまの会による草花の管理

活動のきっかけ

大野木集落では、農業用施設等が老朽化し、維持管理に支障を来していたため、これらの施設の維持補修や地域の活性化に向けた取り組みを行なおうと、自治会役員や営農組合役員、水利組合代表者が中心となり、平成20年6月に大野木環境保全会を設立。

活動の概要

- ◇水路の清掃や農道の路面の整備に加え、補修が必要な施設が増加し、集中的な共同補修作業の実施日を3日間計画し農家・非農家を問わず1日は参加。
- ◇集落の玄関口にあたる幹線道路添いの遊休農地対策で、年1～2回の大型草刈り機による除草作業を実施。また、老人クラブ会員の有志「おひさまの会」が草花の植栽・管理を実施。
- ◇地域の小学校、保育園と連携し、子供たちに伝統農法による米や、野菜づくりの体験学習を実施し、食や農業に関心を持ってもらい農業や農村への理解を深める活動を推進。

活動の成果

- ◇共同活動には農家・非農家問わず参加してもらうことで、施設は「自分たちで維持補修する」という意識と、集落の一体感が醸成されている。
- ◇地域内の遊休農地の減少と、清掃作業や施設の補修整備で集落環境が良くなり、また草花の植栽は道路を通行する人の目を楽しませ、参加者のやりがいにも繋がっている。
- ◇体験学習では指導者への礼状やイベントの招待状が届き、世代間交流にも繋がっている。

問合せ先

〒518-0033 三重県伊賀市大野木347
TEL:090-4400-1354

⑭ふるさとづくり上高尾の会

～ 都市と農村の交流で人が行き交う地域づくり ～

◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化 ◆その他(地域コミュニティの再構築)



『二瀬屋』改装

空き家「二瀬屋」の改装、宿泊等施設に活用



藁の灰汁を使った
藁灰こんにゃく



農作業体験: 田植えと泥んこ遊び



京都大学学園祭へ出店

活動のきっかけ

上高尾地区では少子高齢化・過疎化に向け外部との交流を図る機運が高まり京阪神地区との交流会を実施。これを契機に有志団体「ふるさとづくり上高尾の会」を発足し活動を本格化。

活動の概要

◇平成21年の大阪の支援グループとの交流をきっかけに大阪及び近隣都市住民との農業体験等交流イベントを開催、平成28年度の延べ訪問者数は1,091名と年々増加している。

◇灰汁に稲わらを使用し地域資源を活かしたこだわりの「藁灰こんにゃく」を25年から販売を始め、その後口コミで広がり、今では上高尾を代表する商品となった。

◇当会が参加する「上高尾地域づくり協議会」が分校を改修し交流施設を開設、週末レストランや体験教室等幅広い活動に活用している。地域住民の保養の場としても活用。

◇地域内の空き家を改修し、交流イベント参加者等の休憩・簡易宿泊場所として活用。

活動の成果

◇農業体験や交流施設を通じて都市と農村の交流が定着。

◇農産物の加工販売を契機に、女性参加が進み行動を起こす機運も高まり活動が活性化。

◇「自分たちでもできる農業」を合言葉に、「小さな農」の仕組みづくりに着手したことで耕作放棄地対策や移住・定住に向けた活動が進展

◇さまざまな活動は企画段階から自らが参画することで気持ちのこもったものになり、それゆえ自らが輝き、生きている実感を得られている。

問合せ先

〒518-0216 三重県伊賀市高尾4503

TEL:090-2184-7651

⑮田光資源と環境を守る会

～ 清流と光輝く田園と未来あるふるさと田光 ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化



ため池の池干し



ソバの栽培



コスモス地域交流会

活動のきっかけ

平成3年度に転作田を活用したコスモス畑の共同維持活動を開始。

平成17年度には、「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」が国の天然記念物に指定されたこと、加えて池干しを行った際、在来魚がほとんど生息していない状況に危機感を持ち、環境保全に対する機運が高まり、平成19年度に設立。

活動の概要

◇毎年約3haのコスモス畑を利用し、地域交流会を開催。地元食材を使った餅などをふるまったり、地元特産品を販売。

◇構成員である老人会によるシデコブシ群生地環境整備や、地元小学校と連携した子ども農業体験や伝統文化の伝承、ため池の池干し・外来魚の駆除などを実施。

◇平成28年度からは、酒米「神の穂」の作付、平成29年度からは、「ソバ」の栽培を行い、新しい特産品開発に取り組む。

活動の成果

◇毎年10月に開催する「コスモス地域交流会」での参加人数が2,700人に増加。

◇ため池の池干しにより外来魚が駆除され、希少生物である「アブラボテ(タナゴの一種)」の生息環境の保全に寄与。

◇地元小学校が総合学習の一環で行う生物・生態系の観察会や農業体験を通じ、地域との絆が深まるとともに、後継者の育成と伝統文化の継承に寄与。

問合せ先

〒510-1324 三重県三重郡菰野町大字田光965

TEL:059-396-0314 FAX:059-396-2471